



# 大和中ロータリークラブ会報

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

R.I 会長 クレム・レヌーフ

第 36 回 例会 1979 年 3 月 8 日 (木) くもり 第 42 号

出席報告

会 員 数	出 席 数	出 席 率	前回の修正
26 名	26 名	100 %	100 %
欠 席 者			

会長テーマ 友情の輪をひろげよう

司 会 蜂 屋 会 長

## ゲスト

大谷嘉朗氏（キリスト教児童福祉会理事），  
星 幸男特別代表，有沢昭二氏（新会員候補），  
竹之内弘美氏（クラブ）

## ビジター

金本 恒君（横浜戸塚），安藤忠夫君，青木広吉  
君，土屋 巖君，靱山芳久君，小栗孝司君，昆  
恵君，大津嘉久君（大和）

## 会長報告

- ・ R.I. 会長 クレム・レヌーフご夫妻の歓迎会に出  
席しました。席上会長挨拶では、2月26日より  
各国を訪問しており、来年は75周年で3H運動  
を進めておりますが、ぜひ皆様のご協力を頂き  
たいとの要請がありました。
- ・ 先日車体工業へ参りました折、故矢野初代会長  
の奥様にお目にかゝりましたので、4月22日の  
認証状伝達式のご案内をし、当日ご出席頂く様  
お願い申し上げますと共に、お写真を拝借したい  
旨お伝え致しました。

・ 認証状伝達式の特別来賓として、県知事，市長  
へご出席の依頼を致しましたところ，県知事の  
出席は無理の様でしたが，大和市長はご出席頂  
けるとのご返事をいただきました。3月15日に  
市長に面会し正式に依頼して参ります。

・ 連日のクラブ訪問ご苦勞様です。最後まで頑張  
って下さい。他クラブ訪問は教えられる事が多  
くあります。ゲスト，ビジターの方の取扱いも  
今後他クラブを参考にし失礼のない様，気を付  
けたいと思います。

・ 本日お手元に新会員候補者の略歴を差し上げま  
した。皆様の異議がなければ4月22日より会員  
としてお迎えしたいと存じますのでよろしく。

## 幹事報告

- ・ 3月10日(土)は I.G.F が行なわれます。皆さんの  
ご出席をお願いします。会場が16号線沿ですの  
で混雑することが予想されますので，遅刻のな

本日のプログラム（3月15日）

「米山奨学生について」 ゲスト 小武徹郎氏

次週予定（3月22日）

チャーターナイト準備

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事務所：大和中央1-5-40  
及び 大和市商工会館内  
例会場 電話0462(63)7926

例会日：毎週木曜日12時30分より  
会長：蜂屋良平 副会長：芦田敬治  
幹事：長谷川清一 会報委員：土屋・郡司

い様にお願いします。登録料は3,000円です。  
お帰りに事務局までご納入下さい。

- 3月15日(木)の例会は午後6時30分からです。例会会場は大和市中央文化会館一階の第二講習室です。お間違いのないようにお願いします。
- 本日例会後定例理事・役員会を開催しますので理事、役員の出席をお願いします。
- 例会後チャーターナイト実行委員会の委員長はお残り下さい。又大高、藤田両会員も残って下さい。

## 委員会報告

### 国際奉仕委員会 佐藤委員長

◦ 3月6日地区内国際奉仕委員長による懇談会があり、蔵並ガバナー、伊藤ガバナーノミニー他、地区内の各クラブより委員長が出席、青少年交換世界社会奉仕、地区組合せ、国際奉仕の本を編集する件につき懇談しました。すでに青少年を受入れ交換をしているクラブ、又社会奉仕に登録されているクラブの方の発言では、遠い国との間で行う事で意志の疎通があったり、何の反応もなかったり、手紙を出しても返事が来ないとか、いろいろ問題点もあるようです。当クラブでは未だ何もしていませんが、チャーターナイトが済んだら又皆様と共に相談して実行したいと考えています。

◦ 次にローマ大会の件で、スライドを見せて頂き国際大会に参加することによって、姉妹クラブとか、友人も出来るので、ぜひ多くの方に参加して頂きたいとの要請がありました。

### 雑誌委員会 上田委員長

◦ 本日配布されました。ロータリーの友3月号、縦組22ページに、昨年福祉の日に行いました健康相談の記事が載っていますので、ご一読下さい。



## 卓話



### 「国際里親運動について」

ゲストスピーカー 大谷嘉朗氏

(キリスト教児童福祉会理事)

紹介：蜂屋会長。

大谷先生は国際精神里親運動部の部長をされており、本日は国際里親運動についてと題して卓話を頂戴致します。

### 長谷川嘉朗氏

本日は星特別代表のお招きにより、私共が4年前から進めております「国際精神里親運動」についてお話する機会が与えられました事、お礼申し上げます。

国際精神里親運動は世界の恵まれない子ども救済のため、善意のアメリカ・カナダ人による団体クリスチャン・チルドレンズ・フェンド(CCF)によって始められ、日本の子どもたちにも第二次大戦後の混乱期から昭和49年末まで、物心両面にわたる援助を続けました。

私共は日本に於て、4年前よりこのCCFの精神を受け継ぎ、社会福祉法人「基督教児童福祉会」の中に国際精神里親運動部を発足させ、私ども日本人もアジア隣国の恵まれない子どもに対して愛の援助を始めたのです。

戦後の混乱期から昭和49年までの26年間日本ではこのCCFより、子供の数にして85,500余人、金額にして56億余円の援助を受けたのであります。しかしこの事はほとんどの日本人には知らされていませんでした。援助を停止されるに当たって、C

C Fの本部から提案がありました。「日本もここまで復興し世界三大経済大国になったので援助を終結したい」というものであり、アジアに於けるこの運動を始めてはどうかとの提案でありました。

私達はこの26年間にわたって受けた善意の恩恵をどのようにしてお返ししようかと考えておりました。丁度その時川崎南RCの飯塚会員がすでにCCFの会員としてフィリピンの子供のお世話をしており、私達も思い切ってこの運動を始める事になりました。現在までにこの主旨に賛同して「精神里親」になられた方、その他ご協力いただいた方は1,000人を越え善意の人々によってこの運動は支えられ、尚成長を続けております。

現在この運動によって、フィリピンの地方にある三つの児童センターの子どもたちと、韓国にあるろうあ児の寄宿学校施設を定期的に援助するとともに、タイ国の少数民族の子どもたちの寄宿学校施設や、韓国の児童病院などに緊急援助金の形で一般寄附の中から年間100万円を送っています。

本日皆様にお話したい国際精神里親運動に限って申しますと、昭和50年4月にフィリピンの3つの児童福祉センターに援助金を送りました時の被援助里子数は60名にも達しませんでした。幸各方面の理解を得られ、当初各センターに200名づつという目標でしたが本日現在594名とあと6名を残すだけとなり、4年間にざっと10倍の会員を当てられた事は感謝にたえません。この中で約3分の1はロータリアンの里親会員の方たちです。私達は宗教、宗派にこだわらず、そこに困っている子どもたち、そこに苦しんでいる子ども達に援助を差し伸べたいという事で超宗派でやっています。

そこでアジアに於ける日本の役割というものがあります。注目されている中で、CCWA（国際基督教福祉会国際精神里親運動部の略）がささやかですが果していかなければならないその役割は富める者が貧しい者にくれてやるといった考えでなしに、分ち合って共に生きてゆく、又人間の尊厳にふさわしい社会に早く着きたいという願いです。今年が国際児童年であり、ロータリーでも3H運動を展開しておられるようですが、発展途上国の

飢餓、健康、人間尊重の為に手を差し伸べ、アジアに於ける日本の役割を果さなければなりません。私どもCCWAはわずか600名に欠ける人員しか居りませんが、小さな一しずくも流れ流れていけばやがては大河となり、大海をうるおすものとなると言われますが、一つの大きな日本もこれからアジアに交ってゆく流れの中の底流となることを心から願って日々の業務に会員の皆様に代って励んでいる訳です。

ぜひ皆様にご協力いただき、精神里親になっていただきたいと存じます。

## スマイルBOX

戸塚RC 金本会員、初めて費クラブを訪問させて頂きました。郡司会員、土屋会員にお目にかかれて。合せて皆様のお力で認証状伝達式の成功をお祈り致します。

大和RC 青木広会員、何時もお世話になります。

大和RC 梶山勇会員、初めて中クラブへ出席させて頂きました。今後よろしくお願い致します。

大和RC 小栗会員、昆会員、またまたお邪魔します。

郡司会員 横浜戸塚クラブの金本会員、ようこそおいで下さいました。先日は貴クラブに訪問してチャーターナイトのご案内をさせて頂きありがとうございます。私の会社同様、当クラブもよろしくご指導下さい。

石渡会員 嫁に行った娘が男子出産致しました。初孫です。名前は位之（タカノリ）です。オジイチャンの実感はまだなし、精神年齢27才の青年ですから・・・。



## 『認証状』伝達式まで

あと

**38** 日

(3月15日現在)

### 力を合わせ、成功させよう

#### チャーターナイト

。いよいよ残すところ1ヶ月余となりました。3月8日にはご来賓の方々に宛て招待状も発送され、当日お配りするプログラムの編集作業も進んでいます。出来上がった物を見ると案外やさしく、すぐ出来ると思っていたプログラムも、1頁、1頁原稿を揃えてゆく段になると仲々難しく、かなり時間のかゝる作業です。皆様にお願ひした顔写真にしても期限までに揃わない状況です。これからの皆様のご協力をぜひお願いいたします。(N)

。当日までに準備する計画表については郡司会員が大変にキメ細いものを作り上げています。全会員がそれぞれ分担し合い、落度のないように準備を進めること、これは理想であり至難の業です。思いつきでも何でも結構、どんどん意

見を出して実のあるチャーターナイトにしようではありませんか。(R)

。クラブ訪問も峠をすぎ、数える程しか残っていないところまで来ました。会長報告にもありましたが、他クラブ訪問は大変によい勉強になりますね。チャーターナイトは単なる伝達式でなく先輩諸兄がおっしゃる通り、クラブの親睦とロータリアンが何たるかを覚える良い機会である様に思います。もしこのクラブ訪問が無ったとしたら、井の中の蛙となってしまい、やがてクラブは崩壊してしまうのではないかと感じたりしました。(チヨットオーバーかな?) (Z)

。例会後の実行委員会では、劇場内のオーケストラボックスをどう生かすかについて討議、設営委員長の芦田副会長も当日の様子を頭に浮かべ乍ら、何か良い策はないかと苦慮されていました。(I)

。新しい会員の方もずい分と増え戦力が増強され、全くうれしい事です。そこで提案、未だチャーターナイトに一度も出席されていない方はぜひ早い機会に経験されることをお奨めします。(H)

## ロータリー情報

—情報抄録より—

### ロータリーの創立75周年記念日

創立75周年記念日(1980年2月23日)が近づいてきて、注目されるような奉仕事業の実施が求められているおりから、R.I.会長クレム・レヌフ氏の次の言葉は一だんとその適切さを加えてきた。「中国に実に面白い寓話がある。あるおじいさんの話で、そのおじいさんは仕事に行くのに毎日小山を一つ越えなければならなかった。おじいさんは、山のとっぺんのところになると、いつも両手に一つずつ石を拾い、それを麓までもって降りるようしていた。そのわけを聞かれたとき、おじいさんはこう答えたのである。『わたしゃこの山を動かすつもりなんだ。まあ、わたしの生きているうち、いや息子の代にだってできっこないこと

だが、でも、いつかはこの山もなくなるんだ』。何がなんでもと一途に思っていることには、ふとそれを果す機会が与えられるものだ、と言った人がある。機会はまさにわれわれの前にあらわれているということ、われわれは立ち上がらなくてはならないということ、これが私の固い信念である」。

### ロータリアンであること

フィリピンのあるロータリー・クラブの会長が最近次のように言っている。「哲学者デカルトは『われ思う、ゆえにわれあり』と言った。ロータリーの活動においては『私はロータリアンとして考える、だから私はロータリアンなのだ』というのでは十分でない。『私はロータリアンとして考える。私はロータリアンとして行動する。だから私はロータリアンなのだ』というのでなければならない」。